



鶴ヶ島市長 小川 尋海氏

市長のメッセージ

鶴ヶ島市は、埼玉県ほぼ中央に位置し、交通の利便性と豊かな自然が調和したまちです。

市の将来像『しあわせ共感 安心のまち つるがしま』の実現に向け、市民の皆様とともに未来へつながる確かな一歩を踏み出し、誰もが明日への希望を実感できるまちづくりを進めています。若い世代や子育て世代をはじめ市内外の多くの人から「選ばれるまち」を目指してまいります。

はじめに

鶴ヶ島市は、埼玉県のほぼ中央、都心から約45km圏内に位置する人口およそ7万人のまちである。

市内には、東武東上線鶴ヶ島駅、若葉駅、東武越生線一本松駅の3つの鉄道駅がある。東上線の2駅からは池袋・新宿・渋谷などをはじめ、横浜へも乗り換えなしでアクセスでき、通勤・通学の利便性が高い。

道路では関越自動車道が南北に、圏央道が東西に通じ、それぞれに鶴ヶ島IC、圏央鶴ヶ島ICがある。

こうした交通アクセスの充実を背景に都市化が進む一方、市南部を中心に農地や武蔵野の原風景が残り、自然と調和しながら発展を続けている。

この地区には4年に一度行われる、江戸時代から続く降雨祈願の伝統行事「^{すねおりあまごい}脚折雨乞」（表紙写真、鶴ヶ島市指定無形文化財）がある。雨を呼ぶため、^{しらひげじんじゃ}孟宗竹と^{かんだちがいけ}麦わらで作られた巨大な龍神を約300人で担ぎ、白鬚神社から雷電池までの約2kmを練り歩く勇壮な行事で、国選択無形民俗文化財にも登録されている。

新しい転入者も多いなか、地元住民による保存会では龍蛇製作に関する講習会やこどもたちが担ぐミニ龍蛇の製作指導を通じて技の伝承や後継者育成に力を注ぎ、江戸時代からの伝統を未来へつないでいる。

次の脚折雨乞は2028年8月に予定されている。ぜひ勇壮な雨乞行事を見に訪れてはいかがだろう。

☀ こどもにやさしいまちづくりの推進

鶴ヶ島市では特に注力する施策のひとつに「こどもにやさしいまちづくり」を掲げている。全国的に不登校児童・生徒が増加するなか、昨年度、市内の小中学校13校すべてに校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）を設置し、教室で学ぶことが難しい児童・生徒への支援体制の充実を図った。今年度は、小学校1校をモデル校として、専属の支援員「スマイルサポーター」を配置し、支援強化を図る。

英語教育にも力を入れていて、夏季休業中に小学生対象の親子英会話教室を実施している。また、例年、希望する児童を対象に自主的に学習できる機会として「鶴っ子サマースクール」を夏季休業中に実施しているが、今年度は8月下旬の第2クールに「鶴っ子English summer school」を実施する。外国人指導助手（ALT）とともに、小・中学生が英語への興味関心を高めるプログラムやスピーキング力、リスニ



市内店舗での減塩と野菜摂取推進のためのイベント

鶴ヶ島市概要

市の木 マツ 市の花 ツツジ

人口(2026年6月1日現在)	69,515人
世帯数(2026年6月1日現在)	34,611世帯
平均年齢(2026年1月1日現在)	49.2歳
面積	17.65km ²
製造業事業所数	48所
製造品出荷額等	1,604.0億円
卸・小売業事業所数	407店
商品販売額	1,261.8億円
農業産出額	15.8億円
一人当たり都市公園面積	5.91m ²

資料:経済産業省「経済構造実態調査」ほか



主な交通機関

- 東武東上線 鶴ヶ島駅、若葉駅
- 東武越生線 一本松駅
- 関越自動車道 鶴ヶ島ICから市役所まで約2km
- 圏央道 圏央鶴ヶ島ICから市役所まで約2km

ング力の向上を目指して学習する。

さらに、国による小学生の給食費無償化に加え市独自で中学生の給食費も無償化している。

これらの取り組みにより、子育て世帯の安心感は一層高まることが期待される。

健康づくりの取り組み

誰もが無理なく継続できる健康づくりとして、2023年度から「おいしく適塩!たっぷり野菜プロジェクト」を実施している。

脳卒中や心疾患のリスク低減を目的に、大学や企業等と連携し、減塩と野菜摂取を促進する食環境づくりに取り組んでいる。具体的には、市内小売店舗での食育イベントの開催や適塩セミナー、ナトリウム・カリウム摂取状況の検査などを実施していく。

健康セミナー参加者は、一般的に高齢者や健康意識の高い人に集中する傾向があるが、市では、大学や企業等と連携することにより、若年層や健康に関心の低い層にも、日常の生活のなかで健康を意識する機会を広げている。

鶴ヶ島市の魅力発信とシビックプライドの醸成

市内には「鶴ヶ島」の名がつく高速道路のインターチェンジが2つ、ジャンクションが1つあるものの、市の認知度は高いとは言えない状況にある。このため、市では、若い世代や子育て世代を中心に、認知度向上に向けた取り組みを進めている。

昨年11月には、池袋駅に市のPRポスターを掲示した。鶴ヶ島市は市内に山や大きな河川がないため、ハザードマップ上、「洪水」の危険箇所が少なく、真っ白であることから、「真っ白の安心」を印象づける内容とした。また、鶴ヶ島に移り住んだ架空の家族の35年間の変遷を通じて、「安心して暮らし続けられる未来」を表現したポスターも展開した。

さらに市民のシビックプライド(地域への誇りや愛着)の醸成にも力を入れている。今年度は市民が日常生活のなかで鶴ヶ島市を身近に感じられるように、鶴ヶ島のイメージキャラクター「つるゴン」をあしらった路面シートを作成する。交通安全や健康づくりにつながる、この路面シートを設置することにより「つるゴン」の親しみやすさを通じて、地域への誇りや愛着が芽生え、同時に市民の交通安全や健康への意識向上も期待される。(太田富雄)



鶴ヶ島市を身近に感じられる「つるゴン」の路面シート